

社団法人シャンティ国際ボランティア会

インドネシア・スマトラ島沖地震被災者支援活動 活動完了報告書



緊急救援担当: 白鳥 孝太 薄木 浩一郎

皆様のあたたかいご支援、ありがとうございました

インドネシア・スマトラ沖地震 被災者支援活動 完了報告書
/ 社団法人シャンティ国際ボランティア会 2010年4月



『被災地に咲いた子どもたちの笑顔、それが生んだ復興への活力』

2010年4月末日、SVAは7ヵ月にわたった支援活動を終了しましたので、ここにご報告致します。

突然 家族も家も失い、途方に暮れた人々

2009年9月30日17時16分(日本時間:同日19時16分)、インドネシア・スマトラ島西スマトラ州パダン市西北西60キロ地点を震源に、マグニチュード7.5(震源の深さ約81キロメートル)の大地震が発生しました。死者1,117人(行方不明者241人を含む)、住宅被害198,200戸になる大災害となりました。地震で発生した大きな地滑りによって、集落ごと土砂の下敷きになった村もありました。10月下旬からは雨期が始まり、激しい雨が降り続くなかでテント暮らしを強いられている被災者が多くおり、お互いに助け合いながら支援を待ち続けていました。



崩壊した小学校 (パダン バリアマン県)



全壊した自宅跡で途方に暮れる村人 (パダン バリアマン県)

『地域』を中心とした復興への取組み

SVAでは10月6日に職員2人を、被災地のパダン市と隣接するパダンバリアマン県に派遣し、同国で2006年5月に発生した「ジャワ島中部地震」の際に連携し緊急救援活動を行った現地のNPOと再び協働し、初動調査と緊急支援物資の配布を開始しました。その後、他の日本のNGOと協力するなどして、2ヵ村で合計189世帯に仮設住居を提供しました。また、後半の復興支援活動では地元のNPOと協働し、SVAの特性を活かした教育支援活動を行いました。

【支援活動】 初動調査、緊急支援物資の提供 (2009年10月～2009年12月)

初動期の2週間は、現地 NPO の「シーブ インドネシア」(SHEEP Indonesia Foundation) の緊急医療班と連携し行動を共にしながら、被災状況の調査を行いました。

被災した山間の村々をひとつずつ廻り、支援の手が届いていない村に医薬品や食料を配布しました。中心部のパダン市から車で約2時間半のところにあるパダンパリアマン県には、山間部に多くの小さな村や集落が点在しています。そこで米、豆、食用油、缶詰(魚)、調味料、砂糖、紅茶などの食料を12か村(2,547世帯)を対象に配布しました。なかには被災から約2週間、インスタントラーメンしか食べていない子どもたちもあり、まずは栄養のある食事がとれるように、基本的な食材から配布を始めました。

食料以外では、地震で破壊された家屋の解体や修理、仮設住居建設のための工具として、スコップ、つるはし、ハンマー、釘抜き、釘、ワイヤー、一輪車などの資機材を3ヵ村(921世帯)へ提供しました。



現地 NGO の緊急巡回医療チームと連携(パダン パリアマン県)



被害状況の調査を行う SVA 職員(パダン パリアマン県)



緊急救援物資の食料を手渡す SVA 職員(パダン パリアマン県)



緊急救援物資の工具を手渡す SVA 職員 (パダン パリアマン県)



【写真上】
地元の人々
による緊急
救援物資の
パッキング
(パダン・パリ
アマン県)

【写真上】緊急救援物資(米、缶詰、油、豆、ピーナツソース)



ジュスニマールさん (41 歳)

地震で叔母を亡くし、自宅も全壊しました。今は知り合いの家に住ませてもらっています。政府からの援助はお米とインスタントラーメンを少しだけ。今一番必要なものはおいしい食事と住む所。早く普通の生活に戻りたいです。

【支援活動】 仮設住居の建設 (2009 年 10 月 ~ 2010 年 1 月)

被災から約1ヶ月後、被災者のテント暮らしの長期化が問題となるなかで、仮設住居の建設支援活動を開始しました。現地では10月下旬から雨季に入り、毎日激しい雨が降り続いていました。そのため、家を失った被災者はビニールシートなどでなんとか雨風をしのいでおり、住宅の再建が急務な状況でした。住居を失った被災者に対しインドネシア政府からの住宅支援・補償の実施は、被災後1年半から2年かかると見込まれています。SVAでは下記2ヵ村で、合計102世帯に仮設住居を提供しました。

「南マララ」(Malalak Selatan) 村

地震による土砂崩れの発生により、村の一部集落が地中のみ込まれたアガム県(パダン・パリアマン県の北側)の南マララ村(約200人が土砂崩れによって行方不明)に対して、18世帯分の仮設住居の建設支援を行いました。



地震による大きな地滑りによって土砂に埋まった集落跡



村人が繰出で仮設住居の建設に参加



子連れ的女性も建設作業に参加



完成した仮設住居



ラビさん (31 歳)

地震による地滑りで、今も多くの近所の人が行方不明です。自宅も土地も全て失いました。仮設住居は村人みんなで助け合って建てました。ずっとテント暮らしをしていたので、仮設住居に入居してから生活がだいぶ楽になりました。日本のみなさまには本当に感謝しています。



アハマッド・アブドゥル・ハメッドさん(50 歳)

「9人の甥と姪っ子、3人の兄弟たちを、まだ土砂のなかから、見つけてあげられない…やるせない気持ちだ」

「パインガン」(Paingan)村

パダンパリアマン県の北西部にあるパインガン村では、村の8割以上の家屋に深刻な被害が出た。同村では世帯数も多く、集落も広範囲に点在しているため、SVA 単独の活動実施が困難と判断し、日本のNGO「認定NPO法人 難民を助ける会(AAR)」と協働して大規模な仮設住居建設事業を行いました。SVA では合計 84 世帯に対して、仮設住居の建設支援を行いました。



地元の大学教授を招いて仮設住居建設研修会



水牛を使って建設資材を運ぶ村人



建設資材を各家へ運ぶ村人



建設の進捗状況を確認して村をまわるモニタリングチーム



完成した仮設住居



村長のカンバルディさん(40歳)とご家族

「夜は地震が怖くて、壊れかけた家の軒先に『ゴザ』を敷いて寝ていました。これで、家族全員が安心して眠ることができます。ありがとうございました！」

【支援活動】 幼稚園の再建 (2010年1月～2010年3月)

被災から3ヵ月たった1月からは復興支援活動を開始し、「村の復興は子どもたちの笑顔から」をテーマに、被災した子どもたちのトラウマケアと教育環境の改善を目的とした活動を始めました。SVAでは、地震により倒壊したパダンパリアマン県のシカブ村にある幼稚園1棟を再建しました。この村では、同じく倒壊した小中学校は早い段階で地元政府や国際機関・NGO等からの支援を得られたが、この幼稚園だけは後回しにされており、早急な支援を必要としていました。子どもたちは毎日、今にも崩れ落ちそうな校舎の一角で、雨風をしのぎながらの学習を余儀なくされており、非常に危険な状況でした。3月には新築の幼稚園が完成し、校舎だけでなくブランコ、シーソー、砂場などの遊具も提供しました。また、幼稚園の先生や村人たちと話し合った結果、この校舎を午前中に幼稚園としてだけ利用するのはもったいないということで、午後は毎日、図書館としても近所の子どもたちや村人に開放することになりました。そのため、子ども向けの絵本や、学生・大人向けの小説や専門書なども提供しました。この幼稚園(兼図書館)は、今後村によって管理、運営されることになりました。



今にも崩れ落ちそうな幼稚園で学習する園児たち



幼稚園の完成を待ちわびる園児たち



村をあげての幼稚園の完成記念式典



完成した幼稚園と園児たち



設置された砂場とブランコ



設置された「シーソー」と「うんてい」で元気に遊ぶ園児たち



安心して室内で学習できるようになり喜ぶ園児たち



トリーちゃん (6歳: 幼稚園児)

親友のエマちゃんとすべり台で遊ぶのが大好き。幼稚園の図書館で本を読むのも好きだな。 Barbie人形が出てくる絵本がかわいくてお気に入りなんだ。趣味はダンス。夢はお医者さんになること！



ヤスさん (41歳: 大工)

この幼稚園は私がデザインして建設したので、とても愛着があります。私の5人の家族と親せきが地震により死傷してとても悲しかったですが、一生懸命に仕事をしたので、とても良い幼稚園ができたと思います。ここで子どもたちがたくさん学んで元気に遊んでくれれば私も幸せです。このプロジェクトが終わっても、いつまでも日本から私たちを応援してください。



ロサ先生 (28歳: 幼稚園の先生)

子どもたちのために幼稚園を再建していただき、またたくさんのおもちゃ、遊具、本を提供していただき、日本のみなさまには本当に感謝しています。子どもたちとても喜んでいきます。私自身も図書館で小説や子どもの教育に関する本を読むのが大好きです。子どもたちが立派な大人になるように、ここでしっかりと学ばせていきます。夢はもっとたくさんの子どもたちがこの幼稚園に集まり、いっしょに遊ぶことです。



午前は幼稚園、午後は図書館としても開放



幼稚園に提供されたおもちゃ

【支援活動】 図書館の建設、支援 (2010年1月～2010年3月)

被災したパダンパリアマン県では、子どもたちへのトラウマケアが必要な状況でした。村にはもともと書店などがなく、村人が本に接する機会がほとんどありませんでした。そこで SVA では、地元の NPO 「ミナン ペドゥーリ」(Minang Peduli)と協働して本当に本を必要としている村を厳選し、バルー村、シングリア村、カブン村の 3 ヶ村で、村で初めてとなる 3 棟の「村の図書館」を建設しました。またその他に地元パダンパリアマン県の 3 つの図書館を支援し、合計約 1,050 冊(シカブ村の幼稚園兼図書館を含む)の本を提供しました。各図書館へは小学生用の絵本や図鑑、中高校生が読むための小説や辞書、大人も利用してもらえるように農業、家畜、自営業に関する専門書などを提供しました。また本だけでなく、外でも元気に遊んでもらうために、すべり台、ブランコ、シーソーなどの遊具や、サッカーボール・ゴール、バドミントンラケットなどのスポーツ用品も提供しました。3 月には近所の中学生からなるボランティア「ヤング・カウンセラー」へ、図書の管理や貸し出し方法などについての研修会が行われました。今後これらの図書館は、「ミナン ペドゥーリ」と「ヤング・カウンセラー」によって管理、運営されることになりました。



図書館の完成を待ちわびる子どもたち



完成を喜ぶ子どもたち



完成した図書館と子どもたち



図書館の庭に設置されたすべり台も子どもたちに大人気



弟に絵本を読み聞かせるお姉ちゃん



図書館の管理や貸出し方法などについての研修会



食い入るように本を読む子どもたち



オスワル君 (10歳 小学生)

図書館が開く2時に毎日来るんだ。すべり台で遊ぶのが好きだけど、色んなことが学べるからやっぱり読書の方が好きだな。特技がサッカーだからサッカーの本や雑誌をよく読むけど、難しい科学の本も好きだよ。夢はカッコいい警察官になることかな。



提供された絵本



日本の小説も大人気



大人向けの専門書



提供されたスポーツ用品



ディナさん (13歳: 中学生)

毎日学校が終わってから夕方に図書館に来るの。日本にとっても興味があるわ。だから日本の小説を読むのが大好き。読書の後、外でみんなでバレーボールをするのも好きなんだ。夢は婦人警官になること。だからここで沢山勉強したいな。



セリアさん (19歳: ヤングカウンセラー)

毎日朝から夕方まで図書館を管理しています。子どもたちと遊ぶのが大好き。生まれて初めて読破した本がこの図書館にある「坊ちゃん」。高校で日本語を勉強したことがあるから、少し話せるよ。日本についてもっと知りたいな。将来の夢は学校の先生。アリガトウゴザイマス！

【支援活動】 職業訓練所の新設、保育園の補修 (2010年1月～2010年3月)

SVAでは地元のNPO「ミナン ペドゥーリ」(Minang Peduli)と協働し、職業訓練所2ヵ所を新設しました。パダンパリアマン県にあるドリアン村とプロアシア村には、地震による地滑りで家族や家だけでなく仕事も失った村人が多く、収入を得るための職業訓練が急務となっていました。またこの地域にはもともと、家族を養うために手に職を付けたいと考える村人も多く、「学ぶ場」に対するニーズが非常に高い状況でした。ドリアン村の職業訓練所へは教材用の資材を、プロアシア村の職業訓練所へは訓練所建設用資材と木工用機械を提供しました。それぞれの職業訓練所では、男性は家具や建設資材の加工、女性は裁縫について教員の指導のもと学んでいます。今回SVAが建設した幼稚園1棟と「村の図書館」3棟の本棚、机、椅子などの家具は、全てこれらの職業訓練所の生徒によって作成されました。今後これらの職業訓練所は、「ミナン ペドゥーリ」によって管理・運営されることになりました。



完成した職業訓練所 (ドリアン集落)



完成した職業訓練所 (パラマン・ガダン集落)



完成した保育園



職業訓練所の生徒によって作成された各図書館の本棚



アラユビ君 (5歳: 保育園児)

友達と電車のおもちゃで遊ぶのが好きなんだ。先生は優しいから大好き。だから保育園も大好き。夢は強い軍人さんになること。



グントゥルさん (20歳: 職業訓練所生徒)

この訓練所に住み込んで毎日、木材の加工や家具の作成を学んでいます。SVAの幼稚園や図書館の家具は全部僕が作ったので、先生や子どもたちが喜んでくれて僕も嬉しくなりました。将来の夢は立派な大工になること。早く一人前になって、家族をしっかりと養えるようになりたいです。

【コラム】 本当に教育を必要としている子どもたちへ

SVAが再建したシカブ村の幼稚園(兼図書館)のすぐ裏には、わらぶき屋根のレンガ製作所があります。ここでは大人だけでなく、多くの子どもたちが働いていました。炎天下の日でも、どしゃ降りの日でも、朝早くから夜遅くまで、毎日ドロドロになりながら黙々とレンガを作り、運んでいました。いつも仕事をしながら建設中の幼稚園を横目で見、**「なにができるんだろう？」**という顔をしながら興味深そうに眺めていました。

私も毎日建設現場に通うに連れて彼らと仲良くなり、身振り手振りで話をするようになりました。通訳を介して聞いたところによると、彼らはこの地震の後に家族全員でスマトラ島西部からこのシカブ村へ引っ越して来て、両親は雇われてこのレンガ製作所を運営しており、人出が足りないので7人の子どもたちも総出で手伝っているということでした。この家族は2007年にスマトラ島西部で起きた地震の地滑りにより家、土地、職の全てを失い、それ以来、仕事を求めて土地を点々としており、これまで5回の転

居を余儀なくされたということでした。そのため、子どもたちは学校へ行く機会を失い、子どもたちのほとんどは小学校の低・中学年で中退して両親の仕事を手伝っているということでした。一番下の2歳の女の子まで毎日嫌がらずに、他の兄弟と一緒に強烈な日差しが照りつける中、一生懸命にレンガを一つ一つ運んでいる姿が強く印象に残っています。この家族は他の土地から来た言わば「よそ者」の上、信仰がカトリックということで、熱心なイスラム教徒しかいないシカブ村で、少し浮いている感じがしました。

子どもたちに趣味を聞いたところ、「本を読むことと、外で遊ぶこと！」と、元気な返事が一斉に返ってきました。どのような本が好きか聞いたところ、カトリックの本が一番読みたいということでした。幼稚園(兼図書館)の先生に相談したところ、異宗教の本を置くと村人から反発が出るということだったので、半永久貸し出しという形で、この子どもたちに3冊のカトリックの本を提供しました。また、毎週日曜日しか仕事の休みがないということで、村と協議して日曜日も終日図書館を開放して、この兄弟も利用できるようになりました。私が帰国する前日、「本は仕事の合間にいつも読んでるよ。日本のみなさんに是非お礼を言っておいて！」と、私の姿が見えなくなるまで、両親と共にみんなで大きく手を振ってくれたのが今でも強く目に焼き付いています。「本当に教育を必要としている子どもたち」へ教育の機会を提供していくことの大切さを痛感した瞬間でした。これまで本活動を支えてくださったみなさま、本当にありがとうございました。(緊急救援担当 薄木 浩一郎)



幼稚園裏のレンガ製作所で働く子どもたち



カトリックの本を提供され喜ぶ子どもたち



テリシアさん (14歳)

幼稚園(兼図書館)は私の家の前にあるから、昼休みや日曜日にいつも利用するんだ。趣味は読書と音楽を聴くこと。特に本を読むことが大好き。この図書館で一番最初に読んだ本は「Winter in Japan」という小説。大好きな本だから昼休みに借りて帰って、仕事の後に家でまたゆっくり読み直したんだ。この本を読んで、また今回日本人と始めて出会って、日本という国にすごく興味が湧いてきたんだ。だからいつか絶対に東京に行ってみたい！図書館には辞書や参考書もあるから、いっぱい勉強したいな。あと友達もたくさんできたらいいな。両親も兄弟もみんな、この幼稚園(兼図書館)ができて喜んでるよ。将来の夢は学校の先生になること。日本のみなさんには本当に感謝しています。でもこのプロジェクトが終わってしまって、もう日本の人たちと触れ合えなくなるのがすごく寂しいな。いつまでも私たちのことを忘れないでくださいね！

インドネシア・スマトラ島沖地震被災者支援事業 決算見込
(期間 : 2009 年 10 月 ~ 2010 年 4 月末)

. 収入の部			
区分	項目	収入見込(円)	
民間資金	民間からの「一般募金」(118の個人・団体・企業からのご寄付)	16,512,421	
	ジャパン・プラットフォームからの助成金	9,778,565	
(1) 収入合計		26,290,986	
1Rp.(インドネシアルピア) = 0.0095円			
. 支出の部			
区分	活動名(項目)	備考	支出見込(円)
	緊急支援物資提供(食料・医薬品)		3,062,166
	緊急支援物資提供(工具・資機材)		2,070,000
	仮設住居建設支援(復旧支援活動)		7,692,312
	復興支援(子どものための活動)		5,009,959
	追加支援(職業訓練所、図書館)		659,820
	(a) 直接事業費(被災者支援活動事業費) 小計		
	現地救援活動維持費		220,995
	広報費(報告書等作成費)		151,038
	担当職員人件費		2,691,000
(b) 間接事業費(および担当職員人件費) 小計			3,063,033
事業費(b) 人件費を除く小計		(a) + (b) - (b) 人件費	18,866,290
事業管理費(事業費の2割)		× 20%	3,773,258
(2) 支出合計			25,330,548
(3) 収支差額		(1) - (2)	960,438
			以上です。

SVA緊急救援活動のあり方

当会の願い「共に生き、共に学ぶ」シャンティ(平和)な世界の実現のために、国内外の自然災害などの緊急事態に際し、以下の姿勢を大切にしながら救援活動に取り組んでいます。

地域に根ざした活動の展開・・・被災地域の地域性(文化・伝統・習慣・制度など)を尊重しながら支援活動を行います。そのため被災地域の団体や個人とも協働しながら支援活動を進めます。

人に寄り添い、より必要な人に必要な支援を

・・・「与える支援」ではなく、「共に苦悩を分かち合い、解決策を一緒に考え行動する支援」を行います。被災者に寄り添いながら活動する中で、支援の届きにくい人々へ必要な支援を行います。

子どもと住民の安心のために・・・特に災害弱者である子どもへの支援を重視し、図書館活動や学校建設など通常の教育支援活動で培った経験やネットワークを活かして支援活動を行います。また単なる応急処置的支援ではなく、中長期的視点から被災後の生活再建・地域復興につながる支援活動を行います。

お問い合わせ (社)シャンティ国際ボランティア会 緊急救援担当: 白鳥、薄木

〒160-0015 東京都新宿区大京町 31 慈母会館 2・3F

TEL: 03-5360-1233 FAX: 03-5360-1220 E-mail: eru@sva.or.jp